

東京都新型コロナウイルス感染症対策審議会 議事録

日 時：令和2年12月2日（水）18時00分から18時30分まで

場 所：第一庁舎7階大会議室

出席者：

【委員】

猪口 正孝 東京都医師会 副会長

濱田 篤郎 東京医科大学病院 渡航者医療センター教授

太田 智之 みずほ総合研究所 調査本部 首席エコノミスト・本部長代理

紙子 陽子 紙子法律事務所 弁護士

（大曲 貴夫 国立国際医療研究センター 国際感染症センター長 欠席）

【東京都】

小池都知事、中嶋政策企画局長、山手総務局長、小林危機管理監、村松産業労働局長

（事務局）

ただいまから新型コロナウイルス感染症対策審議会を開催いたします。

審議会の開催にあたりまして東京都の小池知事からご挨拶申し上げます。

（小池知事）

お忙しいところ、急な呼びかけでございますがお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

都内の感染者状況につきましては、ご承知のように、重症者数、先週からアップアンドダウンはありますけれども、増加、それから高い水準にあるということ、それから依然として厳しいこの感染状況も続いております。

先週11月28日から、23区、そして多摩地域の各市町村におきまして、酒類の提供を行う飲食店、そしてカラオケ店に、12月17日までの間、夜10時までの営業時間短縮を要請したところでございます。

都民事業者の皆様にはこの正念場を早期に乗り越えるためにも、引き続きのご理解ご協力をお願い申し上げたところでございます。

本日の審議会におきましては、こうした状況を踏まえまして、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図るため、都が講じるべき対応などにつきまして、専門的な見地からのご意見、忌憚のないご意見をいただきたいと存じます。どうぞよろしく願いいたします。

（事務局）

続きまして、猪口会長よりご挨拶を賜ります。

(猪口会長)

今日は委員の皆様お集まりいただきましてどうもありがとうございます。

これまで審議会では委員の皆様から意見をお聞きいたしまして、都は新型コロナウイルス感染症対策を行って参りました。皆様の意見はその一助になっていることと思えます。本日も活発なご意見交換をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

(事務局)

それではここで、プレスの皆様におかれましてはご退席をよろしくお願いいたします。

(～プレス退席～)

(事務局)

それでは早速でございますが、議事に入らせていただきます。以後の進行につきましては、審議会会長である猪口様をお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

(猪口会長)

それでは会議次第によりまして議事を進めさせていただきます。議事は「G o T o トラベルについて」と「もっとT o k y oについて」です。事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

事務局からご説明いたします。

「G o T o トラベル」に関しまして、国と都が連携しながら、特に重症者の増大をいかに抑えるか、その観点で一致しているところであります。

「G o T o トラベル」につきましては、東京を目的地と出発地とする旅行に関しまして、重症化リスクの高い、高齢者で65歳以上の方と糖尿病や心血管の病気など基礎疾患をお持ちの方に対しまして、12月17日まで、利用の自粛を呼びかけることについてお諮りしたいと思います。

また、「もっとT o k y o」につきましては、既に新規の受付は停止をしておりますが、65歳以上の方や基礎疾患のある方につきましては、申込済みの予約の利用自粛を呼びかけることについてお諮りしたいと思います。説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

(猪口会長)

それでは、資料も見ていただきながら、ご発言をいただきたいと思います。では、各

委員の発言ということで、最初に太田委員からお願いしたいと思います。

(太田委員)

既に昨日から利用自粛に関する報道がされており、いろんな方々がコメントされておりますが、それをお聞きしていて、少し議論が錯綜しているのかなと感じています。

まず、今回の措置が感染拡大の抑制が目的なのか、それとも高齢者を重症化リスクから守るのが目的なのか、どちらを主眼に置いた措置なのかという点です。

後者が今回の主要目的であるということでしたら、高齢者や基礎疾患のある方を対象とした今回の対策は理に適っていると思います。ただ、ご案内のとおり、高齢者の感染は、ほとんどが家庭内又はその居住地での市中感染だと思われまので、旅行自粛による直接的な感染リスク低減効果というのは乏しいだろうと思います。もちろん対象を限定することで、経済への負のインパクトも小さくなりますし、高齢者の方は、そもそも感染リスクに対して慎重ですので、おそらくですが旅行を計画されている方が多くないというのが我々の見立てであります。

そう考えると、今回のポイントは、むしろ危機感を醸成するようなアナウンスメントができるかどうかという点のように思います。その点で言いますと、昨日のメディア報道で、対象が限定的だとか、政府の対応が後手に回っているとか、ポイントのずれた議論をしていること自体はちょっと残念に感じました。今回の措置の背景には重症者の増加があり、それに対して都民の方々に危機感を持っていただくことが有益だと思う次第です。先ほど申し上げた通り、やって損はない、経済的損失が限定的なわけですから、アナウンスメント効果を意識してしっかり都民に訴えかけることが重要だと思います。

次に、これまでの経験を今後どのように生かすかという観点からコメントをさせていただきます。

先ほどアナウンスメント効果が重要だということを申し上げましたが、効果的なアナウンスとは何か？は、これまでずっと課題だったと思っております。知事はその点を意識した情報発信をされ、都民への発信力という点では功績が大きいことは間違いありません。実際、流行語大賞で年間大賞を獲得されるほど世間の注目を集めました。ただそれでもなお、若者と高齢者で捉え方が異なるように、年齢や性別、地域、職業などによって、アナウンスメント効果の効き方が違ってくることに気づけたのはいい経験だと思っています。要するに、マス対象への呼びかけというのは限界がある。すでにSNS等を活用されているが、訴求したいターゲットに合わせた情報発信が大事であることに改めて認識した次第です。実はこうした技術・ノウハウは、すでにターゲティング広告など民間で活用・導入がされています。しかも、その要素技術はすでに確立されているので、感染対策に限らず、様々な政策効果を高めるといっても、このノウハウを活用しているのではないかとみております。

そして2つ目は、今回いろいろドタバタがありましたが、G o T oキャンペーンのよ

うな国の事業に対しては単に予算をつけるだけではなくて、運用面について見直しも含めて柔軟に対応することが必要だということでもあります。今日「もっとT o k y o」の話がありました。例えば「もっとT o k y o」が18日から再開となった時にも、利用に際して、接触履歴アプリの導入をお願いするなど、感染防止策の徹底を条件にするのが一案ではないかと考えています。その他、密を作らないという意味で繁閑を考慮した柔軟な補助金の設定、つまりダイナミックプライシングではないですが、柔軟に価格設定するシステムを導入する必要があると考えています。要は、制度設計も柔軟にしていくということです。おそらくワクチンが普及する前に次の感染拡大局面が来ると思われますので、次の危機、又は次の政策を都民に働きかける際に、そうした経験を活かせるようにしていければいいのではないかと思った次第であります。以上です。

(猪口会長)

どうもありがとうございました。続きまして紙子委員お願いいたします。

(紙子委員)

今日は、事前に申し上げられることをまとめているというほどでもなく、雑駁になってしまうんですけども、とれる対策をとるという意味で、限定した年代や基礎疾患を持っている方ということであっても、また自粛ということであっても、この「G o T o トラベル」に対して、このような要請をするということは必要なことであると思います。

私の身近な意見とか周りの意見ですと、世代を限らなくてもいいのではないかと。人の移動をもう少し抑えないと、効果がどうだろうかという声もあります。私も弁護士会の相談などでは、注意しているんだけど家庭内で若い人からうつってしまった、子供の友達からうつったのではないか、などという相談があったりもします。ただ、期間限定ですし、これによって、大変打撃を受ける観光業、レクリエーション業者の方々も大変ですので、この期間を限った中でまた効果を見て、それによって、今後、重症者の数がどうなっていくのか。また皆さんの、これによる行動変容というの、年末に向けてどうなっていくのかってところを見てまた考えると。少しずつ変化させるということもあっていいのではないかと思います。

政治・行政の長からのメッセージとしては、暮らしと命を守るというメッセージがあれば、それが、一時停止であっても、自粛であっても、新たに市民に届くメッセージとしては、強く経済を止めないけれども、これによって命を守るということを調整していきます、同時に、医療提供体制も守っていきますと。そういうメッセージが伝われば、市民も自律的に、また自分で感染防止の策を取った上で行動するとか、考えて行動変容に繋がるのではないかと思います。以上です。

(猪口会長)

どうもありがとうございました。濱田委員よろしく申し上げます。

(濱田委員)

東京医大病院の濱田でございますが、今回の「G o T o トラベル」につきまして、私の意見といたしましては、結論から言うと、昨日発表された内容で、私も仕方がないと思います。一般的に、飛沫感染症、コロナに限らずインフルエンザにしろ、これが流行拡大する要因というのは、いくつかありますけど、明らかに寒さというのは一つあると思います。それから人の動きというものが、もう一つはあると思うのですね。動きを加速すればするほど流行が拡大していく。ある意味法則的なものがある。「G o T o トラベル」が、今まで何か悪い影響を与えたか、これははっきり言ってわからないです。ですから、今までのことは今までのこととして、今後どんどん寒くなってくる。そういう時期にさらに人の動きを加速させるようなことがあると、「G o T o トラベル」による流行の悪化というものが懸念される。だから、私は個人的には、一時的に全て止めるという方が、感染症的には良いとは思いますが。

ただ、経済的な理由もあるということで、今回のような、高齢者、それからハイリスク者に絞るといった判断になったのではないかなと思います。また、「G o T o トラベル」を止める効果として、流行の拡大を抑えるという効果とともに、重症化を抑えるという効果があります。高齢者であるとかハイリスク者を対象にして自粛をしていただくというのであれば、この効果はみられます。

経済を回しながらということであれば今回のこの選択は、仕方ないと思います。ただ、2週間後にもう一度様子を見て、やはり拡大が続いているということであれば、もう少し強い対応というものをさせていただいた方がいいかなと思います。

それと一つ付け加えておくのが、ハイリスク者という言葉が今回出てきますが、自分がハイリスク者なのかどうかというのを、わからないんですね。これを都として前面に出すのであれば、はっきりと病名などを挙げたほうがいい。これは、厚労省のホームページに「新型コロナウイルス感染症の“いま”についての10の知識」というのが掲載されていまして、そこにはっきりハイリスク者として、六つぐらいの疾患が上がっているんですね。高血圧であるとか、腎臓病とかですね。ですから、そこに上がっている病名なりを挙げていただいた方が自分ハイリスクなんだというのが、わかりやすいかなと思われました。以上でございます。

(猪口会長)

どうもありがとうございました。今日は大曲委員が欠席されています。あらかじめ意見を聴取しているそうですので事務局から報告をお願いいたします。

(事務局)

事務局よりご報告いたします。大曲先生のご意見でございます。

今回諮問頂いた件について、G o T oの感染拡大に及ぼす影響を都として食い止めた
いという意志であると考えており、この点理解いたします。ありがとうございます。

そのうえでですが、今回の流行では発生源が見えにくい中で、おそらくは移動などの
人々の行動の活発化がその原因と考えられております。なかでも移動の活発化が著しい
のは若い世代の方々です。前回の審議会での議論を踏まえましても、G o T oはこの活
発化の強い要因と考えます。感染がこれだけ広がり重症者も増えている状況でありま
す。公衆衛生も、医療も、社会活動一般も元に戻して行くには、中国や台湾のように一
度徹底的に感染を押しさえ込むことが必要と考えております。G o T oについては、65 歳
の以上の方々だけでなく、全世代において中止し感染が十二分におさまってから再開と
するなど、引き続き、都から国へと問いかけて頂けないでしょうか。特に高齢の方々だ
けに自粛を呼びかけますと不公平感や差別感につながる可能性もありますので、ご留意
頂ければと思います。よろしくお願い申し上げます。

との意見をいただいております。ご報告は以上でございます。

(猪口会長)

ありがとうございました。では各委員の意見を聞きましてですね、その意見を聞きな
がら追加に発言がございましたらどうぞ。

(一同頷く)

よろしいですか。では、私の方から私の意見とまとめということでお話をさせていた
だきますと、今の東京の感染状況モニタリングで見えていますと、全世代に広がって
いて、そしてその感染を拡大させているのは若い方達だろうと思います。

先ほどからずっと意見が出ており、若い世代の行動制限をしないことには感染
の拡大自体を抑えるということは多分できないだろうと思います。けれども、お年寄
り、高齢者、それから基礎疾患をお持ちの方たちを守るという視点。それから時短要請
の措置を行ったところの、それを援護射撃するというか、その相乗効果を狙うというの
は、利に適っているだろうと思います。そして、やはりメッセージ性があると思いま
す。こういうメッセージが都民の行動を、変容を導いてくるものだろうと思いますの
で、こうしたこの要請を行うということは、利にかなっているというか、適というか、私
自身はいいのではないかなと思います。

ただ、やはりいくつかお話が出ておりましたけど、感染を本当に抑制させようと思
うと全世代型でなくてはいけないだろうと思いますし、いろいろな運用面を考えたり、そ
ういったもう少しいろいろな方法を考えた方がよろしいんだろうと思いますけども、今
回に関してはですね、これで適であるかなと思います。

まとめますと、他の委員の先生方のお話も、この部分に関しては適であるということ

です。

時期を見て、多分12月17日近辺の様子を見ながらまたご判断されるんだろうとは思いますが、その時に、追加になることがないようにですね、祈りながら、私としては、今回の内容に関しては、適当であるということでまとめたいと思いますが、ご意見はどうでしょうか。

(一同頷く)

どうもありがとうございます。

では、「GoToトラベル」についてと、それから「もっとTokyo」について、この2件においては、審議会としては適当であるとしていただきます。以上であります。

(事務局)

委員の皆様ありがとうございました。最後に知事から一言お願いいたします。

(小池知事)

ありがとうございます。それぞれご専門の見地から、貴重なご意見をいただいたところでございます。また12月17日までと区切っておりますけれども、そのあとのことも考えながら、備えるべきは備えていきたい。

またしっかりとメッセージが伝わるように工夫もしていきたいと考えております。いただきましたご意見をしっかりと受けとめまして、総合的に判断をしてみたいと考えております。

今日も500人ということでしたが、一方で、重症者は59名と、また何人か減ってはおります。これがしばらくこういう状況が続くだろうとは思いますが、指数関数的にパーンと跳ね上がることがないように、また、いろいろと工夫をしながら、また医療機関の皆様方には、お願いもしつつ、また、サポートしながら進めていきたいと考えております。

今日はちなみにいわゆる宿泊療養施設をずっと見て参りまして、今、都の職員が現場で24時間交代頑張っております。激励してまいりました。それからペットと一緒に入れる施設も見て参りまして、犬、猫、うさぎ、いろいろ、家族で入っているような方もおられましたが、そういう形で、いろんなケースを考えながら、即応できるような形で進めていきたいと考えております。

様々なご協力いただきまして誠にありがとうございます。

(事務局)

ありがとうございました。

これにて新型コロナウイルス感染症対策審議会を閉会いたします。

(以上)